

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

## 連携が生み出す未来。日本ジオパーク伊豆半島大会

2016. 10. 10 (月) ~ 12 (水) 静岡県沼津市・プラサ ヴェルデほか

伊豆半島ジオパークで開催された第7回日本ジオパーク全国大会に、野村会長はじめ推進協議会員23名が参加しました。伊豆半島は、かつては南洋にあった火山島や海底火山がフィリピン海プレートとともに北へ移動し、約60万年前にかけて本州に衝突して誕生した「南から来た火山の贈りもの」。現在も国内の活火山では3例しかない単成火山群の一つ、伊豆東部火山群の火山活動や地殻変動により姿を変え行く大地です。神戸大学海洋底探査センターの巽好幸先生による基調講演「列島からの恩恵 大陸誕生の謎を伊豆から考える」の後、「保全」「教育」「防災」「ガイド」「ツーリズム」などの分科会に分かれ、活発な議論が行われました。その結果を取りまとめた次の「伊豆半島宣言」が採択されました。

伊豆半島は、フィリピン海プレートとともに北上し、本州に衝突して誕生した。この衝突は、南アルプスを隆起させ、日本の中央部の地質を大きく曲げることとなった。変動帯に位置する日本の大地は、世界中のどの場所よりも、互いに影響を及ぼしながら、活発に動いている。このような日本の大地の仕組みを理解する我々ジオパークに関わる者も、互いに刺激し合い、影響を与えながら、新たな歴史を作り、未来を生み出していく。

我々は、この伊豆半島の地において、さらなるネットワークの強化と革新に向け、ジオパークの未来を見据えて議論を行い、以下の通り確認した。

- 行政・学者地域住民・企業など多くの関係者は、ジオサイトをモニタリングして重層的な価値を認識・可視化し、協働によって保全と開発と生活のジレンマの最小化を図り解消する。
- ジオ・エコ・ひとのつながりはジオパークのESD（持続可能な開発のための教育）の根幹であることを認識し、今回の議論を通じて、ユネスコが推進するESDをジオパーク版ESDとして展開する第一歩を踏み出した。
- 2016年には次々に災害が日本列島を襲い、被災したジオパークは活動停止状態ともなった。被災ジオパークの活動を支援するため、情報収集を行うリエゾンや活動支援金の導入などを盛り込んだJGNの支援ガイドラインが必要である。
- ガイド養成の理念と手法を共有し、地球を語るために必要なスキルを身につけ、持続可能な仕組みとするためにビジネスとしてのジオツアーを確立させることを目指す。
- ジオパークはすべての人のものである。そこにはユニバーサルデザインが必要であり、様々な人の連携が求められる。各地の経験や挑戦をネットワークで共有することで、ジオパークそのものがユニバーサルデザイン化される。
- ジオパーク活動に取り組む理由は各地域で異なることを共有し、ジオツーリズムはジオパークにおける地域振興の重要な要素の一つであることから、地域経済の発展に寄与するツアーをJGN全体として考えるための第一歩とした。
- ジオカフェでのたくさんの会話のなかで、地域でやっていることがジオパークにつながっていることを実感し、まずはおもしろいおもしろい第一歩を踏み出すことを確認した。
- ジオパークの基礎を学びながら、参加者同士の経験の共有の中で、ジオパークの活動は、自分で考え、世界を変えるものであることを確認した。
- 東南アジアのジオパークを目指す地域からの参加者を交えた英語によるセッションで、たがいの相違点や類似点を見出し相互の学び合いの第一歩を踏み出すことができた。
- ジオストーリーは、地学的現象およびプロセスとそれら以外の要素を組み合わせることによって作られる物語であり、地域に新たな価値をもたらすものである。



(全国大会 開会式)



(住民主体のジオパーク活動  
弥富龍神太鼓のステージ)

沼津市での会議を終えた後、参加者は6つのツアーに分かれて伊豆半島各地を訪れ、伊豆の大地の物語とその上の自然・文化・歴史を学び楽しみました。

## 青少年のための科学の祭典にブースを出展 10/2（日）

今年のブース出展のテーマも、昨年に引き続き「弁当パックで3D地形模型」。萩市沖合に浮かぶ大島の「カンカン石（安山岩）」とその石を加工した「石琴」、を展示し、島の溶岩台地の模型を作りました。子どもたちは実際にカンカン石を叩き、その澄んだ音色に興味を示し、根気よく地形の模型作りに取り組みました。また、見島小中学校は「火山島（見島）にタイムスリップ」というテーマで出展。見島の大地の成り立ちを映像とパネルを使って解説し、見島の溶岩や火山弾に触れたり、岩石を実体顕微鏡で観察したりしました。

ブース出展と同時に開催された「阿武萩学校科学作品展覧会」では、萩の三角州や火山をテーマにした作品も出展されていました。

中でも、「佐々並に温泉を作るぞ!」という作品は、佐々並カルデラと関連づけて、身近な温泉の成り立ちを調べたユニークな内容でした。カルデラのでき方を表現した手作りのジオラマは、見ていて楽しく見応えがありました。



（ブースに参加した子どもたち）

## 講演「見島の地震・津波と活断層」 in 見島総合防災訓練 10/2（日）

去る10月2日（日）、見島総合防災訓練に合わせ、見島体育館（宇津）及び見島中学校体育館（本村）の2会場で、推進協議会学術顧問の金折裕司先生を講師に迎え「見島の地震・津波と活断層～次の大地震に備える～」と題した講座を開催しました。見島付近や沖合いにはいくつかの断層の存在が知られており、一部は活断層であることが確認されています。講座では足元の大地の地質・地形について、また、現在が地震の活動期に当たり、過去の災害を踏まえ次に来るであろう地震とその備えについてのお話があり、両会場を合わせ約200名の方が熱心に聴講されました。

（熱心に聴講される住民のみなさん）



## 第18回弥富そばの花まつり開催される 10/2（日）

10月2日（日）、弥富グラウンドで『第18回弥富そばの花まつり』が開催されました。推進協議会では昨年と同様に、「龍が通った道」を中心としたジオサイトのパネル展示を行いました。展示場所は、まつり会場の入口付近にあったにもかかわらず、多くの方々が足を止めて見学されていました。伊良尾火山や壺ヶ淵の説明を行うと、「先に見に行ってきた」という方もいらっしゃいました。また、今回は来場された方のうち、希望者を猿屋の滝等にご案内して、現地説明も行いました。まつりのステージ会場では、「弥富龍神太鼓」等の披露もあり、来場者の多くが「ジオの恵み」である弥富そばを堪能されました。

（紹介パネルを見る参加者）



## 11月の予定

○弥富ジオ・ウォーキング 10月29日（土）9:30～13:30、集合場所：弥富公民館、申込み・問合せ：須佐総合事務所、弥富公民館

○萩ふるさとまつり出展「萩ジオパーク構想紹介」 11月12日（土）～13（日）、場所：中央公園（ステージ南側特設ブース） どうぞお立ち寄りください。

○中四国近畿ブロック勉強会、隠岐ユネスコ世界ジオパークシンポジウム 11月19日（土） 隠岐・海士町開発総合センター 9:00～17:00、主催：JGN、中国四国近畿ブロック会、隠岐世界ジオパーク推進協議会

○萩東中学校「公開講座」 11月27日（日）、講座名「萩の火山は不思議がいっぱい 特別編 ～萩三角州でジオる～」、14:40～16:00、主催：萩東中学校運営協議会